

学校教育目標	自らを律し、自ら行動する人間の育成 ～ 自律と自立 ～	経営理念	「育ち直し」「学び直し」の理念のもと、児童生徒の自律・自立を支援する。 ～ この学校で学んでよかったと思える学校づくり ～
--------	--------------------------------	------	--

評価計画							自己評価				学校関係者評価		改善方策	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							7月	12月						
学習指導	1	確かな学力の定着	わかる授業づくりの推進	・単元構成を含むUDを取り入れた授業の徹底 ・一人一人の実態に応じた丁寧な指導	・生徒の意識調査「この教科の授業はよくわかります」の肯定的評価の割合	80%以上 中学生 84.2% 小学生 88.9%			中学生 105% 小学生 111%	3	児童生徒実態が多様化している中で、個々の状況に応じて授業の展開を工夫することが求められている。それらを踏まえ、各教職員が授業研究を実施することで、授業力の向上も見られる。引き続き授業研究や他科目の授業参観等を行うことでわかる授業の推進をしていきたい。	B	・教科別の意識調査の評価を教科担任にフィードバックすることで、さらに伸びていくと思う。 ・学習意欲を高め、達成感を持たせるといふサイクルを進めてほしい。	継続して取り組んでいく。
			自主的な学習態度の育成	・授業時間等での課題提示の充実及び学習での取組内容の明確化	・生徒の意識調査「学校で宿題が出されたら忘れずにしています」の肯定的評価の割合	90%以上 中学生 95.8% 小学生 100%			中学生 106% 小学生 111%	3	様々な児童生徒実態があるため、一律の課題の提示方法では対応が難しい現状がある。そのため、児童生徒への学習課題の提示方法を明確にすることや広島学園教職員との連携を密にすることが重要となっている。各教科や各学級で連携や工夫をすることで、宿題への取り組みの推進が行われていると考えられる。	B	特になし	継続して取り組んでいく。
生徒指導	2	社会に通用する生徒の育成	生徒理解に基づく指導の充実	・学園との連携による人間関係能力向上に係る指導の充実	・児童生徒の意識調査「周りへの感謝と思いやりの心をもって生活できるようになった」の肯定的評価の割合	70%以上 100%			143%	4	目標値を上回ることができた。昨年と比べ、項目の中から「トラブル」という言葉無くす現時点ではこのような結果になっている。自分の生活を考え、感謝と思いやりができた部分が思い浮かんだ結果であると感じられる。自己評価も高くできているのだと感じられる。生徒の入れ替わりがあってもこの状態を維持できるようにしていく。	A	目標値の設定が低いように思われる。	来年度の目標値を今年度の達成値をもとに設定する。
			部活動の充実	・全職員で見守る指導 ・広島学園との連携による協働的な指導	・児童生徒の意識調査「部活動では達成感があった」の肯定的評価の割合 ・平日の部活動への教員参加率	85%以上 90%以上	88.9% 参加率 95%		104% 105%	3	ほぼ目標値どおりとなった。達成感においては、認識違いや自分の思い通りにならないからという理由で肯定的評価にできない生徒がいた。後期は陸上でもあるので、目標を持たせながら取り組ませていく。部活動への参加率では、それぞれの部活動に教員3名以上参加で達成という基準にしている。同時にやらなければならないことが立て込むと野球の方で、2名という日が数日あった。	A	特になし	継続して取り組んでいく。
信頼される学校	3	関係機関から信頼される教育活動の充実	広島学園職員から信頼される教育活動の推進	・一人一人の課題やニーズに応じた教育活動の充実	・学園職員の意識調査「本校の教育活動に満足している」の肯定的評価の割合	80%以上 95%			119%	4	目標値を上回ることができた。意識調査結果から学園職員と積極的なコミュニケーションを図り、共通理解にもついた指導や学校の決まりを適切に指導したことが起因していると考えられる。一方、わかりやすい授業においては、肯定的評価が86%と他の質問項目と比べ低く、今後の課題である。	A	肯定的評価でない学園職員は、なぜそのような評価になったか分析することが大切である。	分析の結果、コミュニケーション不足が原因であることがわかった。わかりやすい授業とともにより一層コミュニケーションを図っていく。
業務改善や働き方	4	効果的な教育活動の充実	勤務時間を意識した働き方の浸透	・業務の役割分担の見直しと適正化	・勤務時間外の在校時間が月45時間未満の割合	50%以上 93%			186%	4	目標値を大きく上回ることができた。教職員一人一人が時間を意識し、効率よく業務を行った結果と考えられる。また、教職員の意識調査から、「報告・相談・連絡」の徹底や、教職員間の良好なコミュニケーションもその一因と推測される。	A	今後も、仕事に優先順位、メリハリをつけて業務を果たしてほしい。	継続して取り組んでいく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価  
 4...目標を上回って達成  
 3...目標どおりに達成  
 2...目標をやや下回って達成  
 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価  
 A...とても適切である  
 B...概ね適切である  
 C...あまり適切でない  
 D...全く適切でない  
 (N...判定できない)